



3月29日、30日、「こどものまちミニあやせ」が開催されました。さまざまな職業を疑似体験し、社会の仕組みを学びました。文化会館にて。

高齢者が活躍できる新しい就労の仕組みを作らないか

改革フォーラム 安藤多恵子

問 地域や社会の課題解決には、豊富な経験を持つ高齢者や退職した方の力を活用する仕組みが必要と考える。千葉県柏市は、高齢者がライフスタイルに応じて社会参加する「生きがい就労」という短時間就労の仕組みを作ったが参考にならないか。また、コミユニティビジネスなど、市民に広く知られていない就労の形を紹介することが、新しい

就労の仕組みづくりにつながると思う。さまざまな働き方を分かりやすく紹介する幅広い窓口を、多くの市民が利用しやすいよう、市民活動センターに設置しないか。
答 柏市の仕組みは、高齢者にとって就労と地域貢献を併せ持つ理想的な就労形態だが、人口規模や本市の実情も考慮し、高齢者の活躍の場を検討するときは参考とした。また、子育て中や退職した方、NPOなどが行う活動が地域社会に根付いていくためには、ボランティアや趣味を生かした社会貢献活動、コミユニティビジネスなどの幅広い活動を紹介する窓口が必要と考えている。市民活動センターは、この窓口になり得ると感じており、今後、民営化を予定しているセンターにその役割を期待している。(ほかに「文化会館自主事業のあり方について」「学童保育の支援を強化させていくべきときでは」を質問)

綾南地域の利便性向上に向けた道路整備の取り組みは

新政会 青柳 慎

問 綾南地域の住民は、厚木基地の航空機騒音が激しい状況下にあっても、国防の必要性を理解して生活している。せめて、その他の地域課題の解消に向け、力を傾注しなければならぬ。このような中、以前から要望している、市道16号線拡幅の進捗状況はどうか。当該路線には、

小田急藤沢ゴルフの間にコンクリート堀がある。今後、30年の間に70%の確率で大地震が発生すると言われているが、危険性はないのか。また、都市計画道路並塚塚山線は、南北への延伸が急速に進んでいるように見受けられるが進捗状況はどうなっているのか。
答 市道16号線は、行政境界の道路で、本市側は市街化が進んでいるが、藤沢市側は、

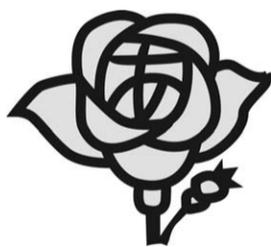
市街化調整区域である。このため、藤沢市に拡幅計画はないが、両市にまたがる課題として早期実現に向け、検討協議を進めている。コンクリート堀は、ゴルフ場に確認したところ、安全であるとの回答だが、必要に応じ安全対策を要請していきたい。また、並塚塚山線の綾南トンネル南側から蓼川までの箇所は、蓼川橋架け替え工事を含め、平成28年度の完成を目指している。旧藤沢座間厚木線の北側は、周辺関係市と連携して事業化の検討を進めていく。(ほかに「特殊詐欺の現状について」を質問)

今後発生が予想されている大震災に対しどう備えるか

新政会 増田淳一郎

問 私たちが住む地域は、今後30年の間に70%の確率で大地震が発生すると予想されている。震災時、最も問題となるのはトイレであるが、2月の大雪のような状況下では、仮設トイレを設置することは困難である。天候なども考慮した対応として、避難所となる建物に組み取り式トイレを設置しないか。本市では、木造住宅耐震化補助事業を実施し

ているが、耐震シェルターの設置や瓦屋根を軽量の金属屋根などにふき替える改修も補助対象としないか。また、人家が密集した地域では、多数の火災発生も予想される。自らの地域を守るため、自衛消防隊が必要と考えるがどうか。
答 公共下水道や合併浄化槽が普及する中、組み取り式トイレの設置は考えていないが、公共下水道が利用できない場合でも使用可能なマンホールトイレの設置を引き続き検討していく。耐震シェルターは、来年度から補助対象とすることを検討している。現在、屋根のみの改修は補助対象外だが、耐震設計で屋根改修も必要と判断された場合は、これまでも補助対象としてきた。また、初期消火の観点から、自衛消防隊の必要性を感じている。現在、自治会ごとに自主防災組織が組織され、共助の核となっていることから、初期消火や人命救助の担い手になると考えている。



市の花 ばら

路線バスの利便性向上に向けた取り組みの進捗状況は

公明党 松澤 堅二

問 本市の路線バス網は、一部の路線を除き、南北に断されている。歴史的背景やバス事業者の事情など、さまざまな理由があつたことだと思ふが、利便性向上に向けた改善を願うところである。そのような中、市総合都市交通計画に記載されている、湘南台駅と海老名駅を結ぶ基幹

バスの運行実現に向けた取り組み状況はどうか。また、長後駅西口発、長坂上行きの最終便は、午後9時1分と早く、利用者からは、増便してほしいという声がある。午後10時2分に綾南会館行きの最終便があるが、長坂上行きに変更するよう要望しないか。
答 市役所を経由し、湘南台駅と海老名駅を往復する基幹バスの導入は、平成25年か

全国学力・学習状況調査の結果と課題をどう捉えるか

武藤 俊宏

問 平成25年度全国学力・学習状況調査の結果が開示された。情報公開請求に応じたことは評価するが、これまでに多くの議員が行った教育に関する質問に対し、結果を基にした議論がされなかったことを残念に思う。開示に至った経緯も「過度な競争や序列化が生じる恐れがある」との理由で非公開とされた後、不服申し立てを受けた情報公開審

査会で「近隣市の多くは公開請求に応じている。非公開の情報には限定的であるべき」との判断が下され、開示に至ったものである。ようやく開示された本市の調査結果をどう捉え、対応していくのか。
答 本市、児童・生徒の平均正答率は、全国平均を1割程度下回った。国語は、自分の考えを書く表現力、算数・数学は、数学的な考え方に課題があること、加えて、生活習慣も改善すべき点があることが分かった。学力向上には、児童・生徒が主体的に学ぶことができるよう、分かる授業を行うことが不可欠である。少人数指導など、きめ細やかな指導体制を進めるとともに、健康的な生活習慣や学習習慣の確立に向け、教育委員会と学校が共通認識の下、連携して取り組み、確かな学力の向上を図っていく。(ほかに「学童保育の将来について」「学校図書室の状況と管理・活用について」を質問)

ら、近隣市などと調整を進めているが、市役所から海老名駅までの間は、既存路線があることから、導入は困難な状況にある。現在、実現可能な市役所から湘南台駅までの間の運行開始に向けて、近隣市やバス事業者と課題の抽出などを行う勉強会を実施している。また、長後駅西口発、綾南会館行きの最終便を長坂上行きに変更できないかバス事業者に要望したところ、現在、運行経路の変更を検討していると回答を得た。引き続き早期実現を要望していきたい。(ほかに「公会計制度の充実について」を質問)